



# 平安だより

世田谷平安教会付属 平安幼稚園

2020年 3月号

「聖霊に導かれて」

牧師・園長 長村亮介

「今日は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことではないか、信仰の薄い者たちよ。だから、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思い悩むな。それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである。何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。だから、明日のことまで思い悩むな。明日のこととは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である。」

(マタイによる福音書 六章三〇〜三四節)

三月になりました。毎年この頃になると思わされることですが、幼稚園で過ごす子どもたちの成長にはいつも目を見張るばかりです。幼稚園は子どもたちが独り立ちをする第一歩です。保護者の皆さまの愛情をいっぱいにかけて、日々成長する子どもたちの上に、神さまの祝福が豊かにありますようにお祈りします。

さて右に引用しましたのは、イエスさまの「山上の説教」と言われる、教会ではよく知られる御言葉です。個人的なことですが、昨年還暦を迎えました。昔は随分と先のことと思っていたのですが、わたしのこれまでは大きく二つに分けられます。それは生まれてから牧師になるまでの三〇年と牧師になってからの三〇年です。

それで、子どもたちの成長を思いながら、自分がこの三〇年を何をして、成長したかと思ひますと、常に五里霧中で、目の前のことで精一杯なばかりで、わたしにはこれと言えないものは何一つないように思います。牧師の仕事の第一は日曜日の礼拝の説教です。しかし先輩の先生方の説教集などを拝見すると、自分の拙さが申し訳

なく、心苦しいばかりです。反対に言う、わたしも先生方のように、人の心を打つような説教ができるようになりたいという、そのような傲慢な思いを引き摺って来たと言えるのかも知れません。何故なら聖書の御言葉そのものより人の心を打つことは他にできないからです。

「結果を出す」という言葉を時々耳にします。今年は東京オリンピックがありますから、そこで「結果を出す」ということは、良い色のメダルを取ることでしょう。このような「結果を出す」生き方をアリストテレスは「キーンネス」と呼びました。「キーンネス」は、「結果を出す」ことを最重要とする生き方のことです。その反対に、結果を気にしない生き方もあるのです。たとえ結果が出なかつたとしても、そのプロセスの一瞬一瞬が大切で、しかも完成されたものであるとする生き方です。それをアリストテレスは「エネルギー」と言いました。

「キーンネス」が「マラソン」のような生き方であるとする「エネルギー」は「ダンス」のような生き方と言えます。つまり「ダンス」は、踊っているその時が楽しいのであって、踊り切らなくてはならないわけはない、まして「結果を出す」ために踊っている訳ではないのです。実は、わたしがこのことを知って興味を持ったのは、聖書で「聖霊の働き」という時の「働き」が「エネルギー」なのです。信仰に生きるとは神さまの御国を目指すことです。信仰については「キーンネス」的かも知れませんが、それは本人の努力によるところも、神さまの導きです。私たちはその日その時を、神さまの御言葉を第一にして、この「エネルギー」によって御国へと導かれるものなのです。

この三〇年の終わりの七年を「世田谷平安教会付属平安幼稚園」で過ごすことができました。今年度で牧師を辞任し、それに伴い園長を退職いたします。保護者の皆さまには様々にお支えとご協力をいただき、心より感謝をいたします。子どもたちの元気な声を聞くのが、わたしの「エネルギー」だったかなと思います。 Ω